

和歌山大学協働教育センター クリエプロジェクト
<2017年度ミッション成果報告書>

プロジェクト名：3大学連携天野地域活性化プロジェクト

ミッション名：3大学連携による地域活性化に関する研究

ミッションメンバー：システム工学部・3年・加藤史也、経済学部・2年・村木寛彩、経済学部・2年・木村青空、他15名

キーワード：社会教育・生涯学習・地域活動・大学間共同

1. 背景と目的

【動機】昨年度1年間は設立初年度ということで、“地域活性化“を掲げてかつらぎ町天野地域で地域のために何ができるかを学生自身が主体的に考えて活動してきた。

しかし活動を継続していくうちに“本当の地域活性化とはなにか”について考えさせられるようになった。そこで学生の考える地域活性と地域の考える地域活性について明らかにしたいと思った。

【背景】社会教育・生涯学習という視点から学生が地域との交流を通じた活動を行う中で学生の活力が地域に対してどのように活かされるのかを明らかにしようと2年前に設立された団体である。社会教育の視点でいうと学校の中だけでは学ぶことのできない学びを学生の自主活動として学外で行おうというものである。

【目標】1つは団体として天野地域の考える“地域活性化”とは何なのかを明らかにする。さらに天野地域の具体的な魅力を明らかにする。

2つ目に数人のメンバーで構成した部会ごとにテーマを掲げそれに関する調査を行い、天野地域の方々に報告する。

2. 活動内容

【内容】5月に2年目になって初めての活動を行った。今年度から新たに加わったメンバーを含め、地域の方々と交流し、また、地域を散策して地域を改めて“知る”ことを行った。

6月には地域で毎年行われているホテル観賞イベントに参加した。夜は地域の簡易宿泊施設で宿泊し、地域の方と交流した。次の日は和歌山大学の留学生5名ほどを天野地域に招待し、メンバーの学生たちが天野地域を案内して回る自然体験ツアーを主催した。

8月には天野地域の子供会が主催する“子供会キャンプ”に参加した。子供会の方々が企画した肝試し等に学生も参画し、イベントを盛り上げた。さらに学生と子供との交流時間には学生が子供たちをサポートする形で子供と遊ぶ遊戯の内容を子供たちに考えてもらい、1時間ほど子供たちと遊んだ。

11月には学生主催の秋祭りと称したイベントと活動の中間報告会を簡易宿泊施設となっている旧天野小学校で行った。初日は秋祭りを開催し、その夜に地域の方との懇親会を行った。そこで天野地域の考える“地域活性とは何なのか”について意見を交わした。2日目に行った活動の報告は天野地域とその周辺の住民の方々に呼びかけを行い、ポスターセッションという形で報告を聞いていただいた。

最後に、2月にはかつらぎ町の総合文化会館で天野地域だけでなくかつらぎ町の方にも告知をして最終の報告会を行った。活動を通して導かれた地域活性の考え方や、地域の具体的な魅力に関しての報告を行った。さらに各部会でいった調査に関する報告も行った。



子供に話し合いで遊びを考えてもらった



留学生に発見した天野の魅力を伝えた



地域に調査の報告をし、意見交換を行った



かつらぎ町総合文化会館での報告会

3. 活動の成果や学んだこと

今年度は6つあった部会のうち5つの部会が調査を行った。

歴史観光部会では“天野の歴史を子供に伝える”ことをテーマに掲げ、天野地域の歴史に関する調査を行い、それを紙芝居にして秋祭りのなかで子供たちには披露した。地域の方からは地域が活性化するにあたって地域の子供たちが地域のことを知り、好きになってもらい、ここで暮らしてもらえることが欠かせないとの声をたくさん聞いた。しかし、地域の歴史の伝承がうまくなされているか調査した結果、子供たちはあまり興味を示さず、歴史や文化の継承がうまくなされていないと分かった。そこで紙芝居という媒体にのせて地域の歴史を子供たちに伝えたところ、多くの子供たちが興味を示し、地域の方々からも好評をいただいた。

環境保全部会では“天野の自然を子供や外国人に伝える”ことをテーマに掲げ、外国人留学生を含む地域外の人向けに地域を紹介するツアーの実施に成功した。また、子供会キャンプの日の夜には望遠鏡を用いて地域の子どもたちと星の観察を行った。どちらも事前準備の段階で学生自身の学びが多くあり、学生の声で天野の魅力を伝える活動にこ

ちらも好評をいただいた。

地域活性部会では“天野地域の魅力を発見する”ことをテーマに掲げ、地域の移住者と高齢者へのインタビューをもとにどのような方が地域に住んでいるのかを調査した。驚くことに、外部から天野地域への移住者が非常に多く、さらには外部から天野地域への移住待ち状態にもなっているということがわかった。このように移住したいと思えるような地域の雰囲気良さや自然の良さが天野にはあると知った一方で、高齢者の方からは若者が減少していくような現状のままだと地域は近いうちに消滅してしまうだろうといった消極的な意見も見受けられた。インタビューを通じて知った事実から天野の魅力を第三者として発見するだけでなく、関わることで地域の消滅を阻止したいという気持ちも生まれた。

子育て部会では“和歌山市と天野地域との子育ての違い”を明らかにすることをテーマに掲げ、天野地域では子供を育てる親御さんへのインタビューを積極的に行った。天野地域では 2013 年に地域にあった天野小学校が統廃合で廃校となったことで、現在はバスで 20 分ほど山を下った場所にある小学校に子供を通わせていると聞きました。やはり地域の中の学校があるかないかの違いは大きく、天野の自然の中で子育てすることに意味を感じている親御さんは多くいた。

農業部会では“タケパウダーの対照実験と農業の生業を学ぶ”ことをテーマに掲げ、地域の農業をされている方に助言をいただきながら地域で作られたタケパウダーを用いた野菜に含まれる硝酸化窒素と糖度の測定を行った。そして天野のタケパウダーの効能を数値で証明した。また、タケパウダーブランドの野菜を使った食品の販売を大学祭で販売することをきっかけに天野を知っておられるように活動を行った。ここから地域の方のおっしゃっていた“農業は生業”であり生産するだけでなく販売する意味が分かった。

そして各部会の調査は地域を活性化させようということを第一には考えていない活動であった。しかし 11 月の中間報告会后に地域の方から、各部会が調査活動を行っていくうちに地域が活性化されたと言っていた。そこから、地域活性化とは地域が活性化されたと感じた時に初めて成し遂げられるものであると明らかになった。



簡易宿泊施設「ゆずり葉」(旧天野小学校)



天野の歴史を紙芝居にして子供に伝えた



地域活性部会による地域の高齢者の方へのインタビュー



農業部会によるタケパウダーの対照実験

4. 今後の展開

地域からも学生からも継続して活動をしていってほしい、していきたいという声が上がっているため天野地域での活動を継続する予定である。さらに今年度は参加する形で子供会キャンプ等で子供会との関わりがあったが、次年度は子供会からの要望もあり、参画して地域を一紙に盛り上げていこうと考えている。また新メンバーを迎えて天野の良さを広める一方、より深く地域を知って、共有し、継承していける組織として地域と関わっていこうと考える。

課題としては各部会の調査結果にまだ余地がうかがえたことと部会ごとの独立化が見受けられたため、団体としての協調性を高めるような部会に代わる組織化を行う必要がある。

また、物理的な課題として交通や宿泊に費用がかかりすぎるため手段を考える必要がある。

加えて学生の活動を地域の方に見えるようにする必要もあると考えており、発表する場や交流する場を設ける際に必要な学生の発信、伝達能力を鍛えていくような活動を行おうと考えている。

5. まとめ

地域の方からの助言として、“学生がやってみたいことを地域の方を巻き込んで地域で活動してほしい。地域活性をしようと思わなくてもいい。”とおっしゃってくださっており、学生も地域活動を楽しみながら社会教育活動を行っている。特に地域の子供たちの成長を感じながら天野地域が学生の“ふるさと”なりつつある。すでに社会に出られた先輩方からも天野に帰ってきたいという声があり、地域からもいつでも帰ってきていいと学生を受け入れてくださっている。そんな天野地域でしか学べない学びを得られる居場所を作っていきたい。